大学院カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

国際言語文化教育プログラム（琉球アジア文化領域）

ディプロマ・ポリシー（DP）

【1】学習教育目標（1）

研究科の定める所定の期間在学し、各教育研究領域の推奨する履修モデルを参照しながら授業科目を履修して基準となる単位を修得することに加え、学位論文の審査及び最終試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。地域はもとより国際的な視野においても、文化に対する幅広い知識を備え、それぞれの専門分野における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力とを身に付けているかどうかを、課程修了の基準とする。以上を踏まえ、（1）高度な専門知識、（2）地域及び異文化に対する深い理解と洞察力、（3）高い倫理性、（4）外国語運用能力を備え、国際的な場で活躍できる行動力と発信力、をそれぞれ有する研究者及び高度な専門性を必要とする職業を担いうる人材を育成する。

カリキュラム・ポリシー（CP）

【2】学習教育目標（1）を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

科学技術の高度化に伴う情報の国際化や異文化交流が急速に進展する今日の社会では、様々な領域において、地球的規模での人的交流が進行し、人間の文化や価値もますます多様化している。人間を取り巻く社会及び地球の環境がこのように複雑化、多様化していく中で、本専攻は、琉球やアジア、そして欧米の言語、文学、歴史、文化、コミュニケーション等の諸分野を有機的に連携させた学際的教育研究を行うことにより、グローバルな視点で諸問題に取り組み解決する能力を有し、地域社会はもとより国際社会（特にアジアや環太平洋地域）でも活躍しうる高度専門職業人及び研究者の養成を目指す。具体的には、琉球アジア文化、欧米文化、そして言語コミュニケーションの3つの教育研究領域のそれぞれにおいて、沖縄やアジアの言語、文学、文化、欧米の言語や文化、そしてコミュニケーションなどを対象とした教育研究を行う。また、高度な異文化理解と外国語運用能力を基礎として、国際的な場で活躍できる人材の養成を目指す教育研究を行う。原則として、（1）1年次の国際言語文化特別演習Ⅰ及びⅡで研究者としての高い倫理性及び高度な専門知識の基盤の修得を目指し、併せて（2）1年次から提供される各特論科目をとおして各自の専門に関する高度な専門知識の体系的修得を目指す。また、（3）各演習科目をとおして地域・異文化に対する深い理解力と洞察力を涵養し、（4）国際言語文化特別演習Ⅲ及びⅣをとおして、語学運用能力、国際的な場で活躍できる行動力と発信力を養うことができる。

【3】学習教育目標(1)を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
選択必修		琉球近世史基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		琉球近世史応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		沖縄近現代史基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		沖縄近現代史応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		琉球民俗学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		琉球民俗学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		日本古典文学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		日本古典文学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		日本近代文学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		日本近代文学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		中国文学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		中国文学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		朝鮮文学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		朝鮮文学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		琉球方言学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		琉球方言学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		日本語構造基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		日本語構造応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		批判的談話研究特論Ⅰ	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		批判的談話研究特論Ⅱ	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		琉球古典文学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		琉球古典文学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		中国語教育学基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		中国語教育学応用特論	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		中琉関係史基礎特論	2	1～2年次	前期	演習
選択必修		中琉関係史応用特論	2	1～2年次	後期	演習

合計単位数　52

大学院カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

国際言語文化教育プログラム（欧米文化領域）

ディプロマ・ポリシー（DP）

【1】学習教育目標（1）

研究科の定める所定の期間在学し、各教育研究領域の推奨する履修モデルを参照しながら授業科目を履修して基準となる単位を修得することに加え、学位論文の審査及び最終試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。地域はもとより国際的な視野においても、文化に対する幅広い知識を備え、それぞれの専門分野における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力とを身に付けているかどうかを、課程修了の基準とする。以上を踏まえ、（1）高度な専門知識、（2）地域及び異文化に対する深い理解と洞察力、（3）高い倫理性、（4）外国語運用能力を備え、国際的な場で活躍できる行動力と発信力、をそれぞれ有する研究者及び高度な専門性を必要とする職業を担いうる人材を育成する。

カリキュラム・ポリシー（CP）

【2】学習教育目標（1）を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

科学技術の高度化に伴う情報の国際化や異文化交流が急速に進展する今日の社会では、様々な領域において、地球的規模での人的交流が進行し、人間の文化や価値もますます多様化している。人間を取り巻く社会及び地球の環境がこのように複雑化、多様化していく中で、本専攻は、琉球やアジア、そして欧米の言語、文学、歴史、文化、コミュニケーション等の諸分野を有機的に連携させた学際的教育研究を行うことにより、グローバルな視点で諸問題に取り組み解決する能力を有し、地域社会はもとより国際社会（特にアジアや環太平洋地域）でも活躍しうる高度専門職業人及び研究者の養成を目指す。具体的には、琉球アジア文化、欧米文化、そして言語コミュニケーションの3つの教育研究領域のそれぞれにおいて、沖縄やアジアの言語、文学、文化、欧米の言語や文化、そしてコミュニケーションなどを対象とした教育研究を行う。また、高度な異文化理解と外国語運用能力を基礎として、国際的な場で活躍できる人材の養成を目指す教育研究を行う。原則として、（1）1年次の国際言語文化特別演習Ⅰ及びⅡで研究者としての高い倫理性及び高度な専門知識の基盤の修得を目指し、併せて（2）1年次から提供される各特論科目をとおして各自の専門に関する高度な専門知識の体系的修得を目指す。また、（3）各演習科目をとおして地域・異文化に対する深い理解力と洞察力を涵養し、（4）国際言語文化特別演習Ⅲ及びⅣをとおして、語学運用能力、国際的な場で活躍できる行動力と発信力を養うことができる。

【3】学習教育目標(1)を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修		国際言語文化特別演習 Ⅰ	2	1年次	前期	演習
必修		国際言語文化特別演習 Ⅱ	2	1年次	後期	演習
必修		国際言語文化特別演習 Ⅲ	2	2年次	前期	演習
必修		国際言語文化特別演習 Ⅳ	2	2年次	後期	演習
選択必修		アングロ・アイリッシュ文学特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		アングロ・アイリッシュ文学演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		現代イギリス文学演習	2	1～2年次	前期/後期	演習
選択必修		ヴィクトリア朝文学特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		19世紀イギリス小説演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		イギリス文学演習	2	1～2年次	前期/後期	演習
選択必修		アメリカ女性文学特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		アメリカ女性文学演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		19世紀アメリカ文学特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		19世紀アメリカ文学演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		アジア系アメリカ文学特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		アジア系アメリカ文学演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		フランス文学特論	2	1～2年次	前期/後期	講義
選択必修		スペイン文学特論	2	1～2年次	前期/後期	講義

合計単位数　36

大学院カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

国際言語文化教育プログラム（言語コミュニケーション領域）

ディプロマ・ポリシー（DP）

【1】学習教育目標（1）

研究科の定める所定の期間在学し、各教育研究領域の推奨する履修モデルを参照しながら授業科目を履修して基準となる単位を修得することに加え、学位論文の審査及び最終試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。地域はもとより国際的な視野においても、文化に対する幅広い知識を備え、それぞれの専門分野における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力とを身に付けているかどうかを、課程修了の基準とする。以上を踏まえ、（1）高度な専門知識、（2）地域及び異文化に対する深い理解と洞察力、（3）高い倫理性、（4）外国語運用能力を備え、国際的な場で活躍できる行動力と発信力、をそれぞれ有する研究者及び高度な専門性を必要とする職業を担いうる人材を育成する。

カリキュラム・ポリシー（CP）

【2】学習教育目標（1）を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

科学技術の高度化に伴う情報の国際化や異文化交流が急速に進展する今日の社会では、様々な領域において、地球的規模での人的交流が進行し、人間の文化や価値もますます多様化している。人間を取り巻く社会及び地球の環境がこのように複雑化、多様化していく中で、本専攻は、琉球やアジア、そして欧米の言語、文学、歴史、文化、コミュニケーション等の諸分野を有機的に連携させた学際的教育研究を行うことにより、グローバルな視点で諸問題に取り組み解決する能力を有し、地域社会はもとより国際社会（特にアジアや環太平洋地域）でも活躍しうる高度専門職業人及び研究者の養成を目指す。具体的には、琉球アジア文化、欧米文化、そして言語コミュニケーションの3つの教育研究領域のそれぞれにおいて、沖縄やアジアの言語、文学、文化、欧米の言語や文化、そしてコミュニケーションなどを対象とした教育研究を行う。また、高度な異文化理解と外国語運用能力を基礎として、国際的な場で活躍できる人材の養成を目指す教育研究を行う。原則として、（1）1年次の国際言語文化特別演習Ⅰ及びⅡで研究者としての高い倫理性及び高度な専門知識の基盤の修得を目指し、併せて（2）1年次から提供される各特論科目をとおして各自の専門に関する高度な専門知識の体系的修得を目指す。また、（3）各演習科目をとおして地域・異文化に対する深い理解力と洞察力を涵養し、（4）国際言語文化特別演習Ⅲ及びⅣをとおして、語学運用能力、国際的な場で活躍できる行動力と発信力を養うことができる。

【3】学習教育目標(1)を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
選択必修		異文化コミュニケーション特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		異文化コミュニケーション演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		比較文法特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		比較文法演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		言語構造・機能特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		言語構造・機能演習	2	1～2年次	後期	演習
選択必修		コミュニケーション研究特論	2	1～2年次	前期	講義
選択必修		コミュニケーション研究演習	2	1～2年次	後期	演習
必修		国際言語文化特別演習Ⅰ	2	1年次	前期	演習
必修		国際言語文化特別演習Ⅱ	2	1年次	後期	演習
必修		国際言語文化特別演習Ⅲ	2	2年次	前期	演習
必修		国際言語文化特別演習Ⅳ	2	2年次	後期	演習

合計単位数　24